

令和 3 年 6 月 8 日現在

機関番号：32682

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2020

課題番号：18K12295

研究課題名(和文)歌舞伎と戦争に関する総合的研究

研究課題名(英文)A General Study on the Kabuki and Wars

研究代表者

日置 貴之(Hioki, Takayuki)

明治大学・情報コミュニケーション学部・専任准教授

研究者番号：70733327

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文):本課題では、歌舞伎と明治維新期の戊辰戦争から太平洋戦争に至るまでの戦争との関係について、戦争を直接描いた作品の分析と、戦争が歌舞伎の上演環境に与えた影響の分析を中心に、総合的に考察した。そして、明治期以降の歌舞伎において、先行作品の手法を踏襲しつつ戦争表象が繰り返されていった過程や、新聞等による報道との関係、絵画・戯作・近代小説といった隣接領域の芸術との共通点・相違点等を指摘するとともに、明治期の主要な未翻刻の戦争劇の翻刻集を作成し、オンラインでの公開をおこなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

歌舞伎と戦争との関係については、近年ではJames Brandon氏が日中戦争、アジア・太平洋戦争期の戦争劇・軍事劇について詳細に論じている一方で、明治維新期以来の近代日本の戦争と歌舞伎との関係を通史的に論じる試みは稀である。本研究ではそうした観点から明治以降の歌舞伎と戦争の関係について、作品内容と興行環境の両面から論じることを試みた。その成果は、今後刊行予定のものも含め複数の論考に結実し、伝統演劇である歌舞伎の見過ごされがちな一面を明らかにした。また未翻刻であった複数の明治期の戦争劇を翻刻することで、絵画・小説等隣接領域における戦争表象の研究にも資することが期待される。

研究成果の概要(英文):This research project focused on the relationship between the kabuki and the wars that Modern Japan experienced. Both of the works which described the wars directly and the impact of the wars on the environment around the kabuki were investigated. And it was revealed that the process of reuse of the representations of wars in the modern kabuki, the similarity to the war representations in other genres of art. In addition to that, "The Collection of the War Plays of the Meiji Era" was made as a result of this project and this includes the transcription of four important war plays in the Meiji Era and the commentary.

研究分野：演劇研究

キーワード：歌舞伎 演劇 戦争 明治時代

## 1. 研究開始当初の背景

日本の伝統演劇として広く知られる歌舞伎が、近代において戦争とどのような関係を有していたかについては、明治期の戊辰戦争・西南戦争・日清戦争等を題材とした作品に関して、個々の論考が存在する。また、昭和期の日中戦争、アジア・太平洋戦争時の戦争劇・軍事劇や、戦時下の興行の様子については、歌舞伎の興行を担ってきた松竹株式会社の社史や、独立的に活動してきた劇団前進座の劇団史、同時代の雑誌・新聞等のメディアに掲載されたものおよび、のちになってインタビューや自伝等の形でまとめられた、多数の記録や当事者による証言があり、研究としては近年、James Brandon, *Kabuki's Forgotten War: 1931-1945*, University of Hawaii Press, Honolulu, 2009. が、当時の戦争劇・軍事劇の内容について詳細に論じている。しかしながら、戊辰戦争から1945年の敗戦に至る通史的な視点から、歌舞伎と戦争の関係を論じる研究は、いまだに稀であった。

また、能楽研究においては、近年、戦時下の能楽の動向に関して、具体的・実証的な論考が多数発表されており、研究が進展しているが、そうした隣接領域の動向にも目を配りつつ研究を行うことを意識した。

## 2. 研究の目的

本研究では、そうした背景から、近代における歌舞伎と戦争との関係を総合的に研究し、個々の戦争劇・軍事劇等の性格や、戦時下における興行のあり方のみならず、近代において歌舞伎という演劇がどのように変化していったのかを、戦争というフィルターを通して見ていくことを目指した。

具体的には、個々の戦争劇・軍事劇の作品論と、興行と戦争との関係に関する環境論的研究を融合させ、さらに明治から昭和に至る時期を通して見ていくことで、近代における歌舞伎と戦争との関係の全体像を明らかにすることを目的とした。

## 3. 研究の方法

個々の作品研究では、明治期から昭和期に至る戦争劇・軍事劇について、写本・謄写版等による上演台本・活字による単行本や雑誌掲載といった形で残る台本を基礎資料としつつ、当時の新聞・雑誌、上演関係者および観客による証言や回想等、さまざまな資料を総合的に検討することによって、戦争劇・軍事劇の実際の上演の様子を具体的に想定していった。

同時に番付・筋書をはじめとする興行関係資料、役者等の談話などから、戦時下における興行の様子や、上演に関わる当事者たちの心境、具体的な戦時体制への関わり方などについても明らかにしていった。

また、近代の日本が戦争に参加していくなかで獲得した旧植民地等の「外地」における歌舞伎の興行についても、すでに研究の蓄積がある「外地」における能楽の公演・稽古等に関する調査・研究の手法を参考にしつつ、その動向を調査した。

## 4. 研究成果

研究期間最終年度となる2020年度に、明治期の戦争劇であり、重要な意味を持ちながら従来翻刻されることのなかった、河竹黙阿弥『明治年間東日記』(正本写草双紙、上野戦争を題材とする)、勝彦蔵『日本大勝利』(日清戦争を題材とする)、竹柴其水『会津産明治組重』(会津戦争と日清戦争を描く)および新演劇の川上音二郎一座が演じた藤沢浅次郎作『壮絶快絶 日清戦争』の4作品を翻刻した上で、詳細な解説を付した『明治期戦争劇集成』を作成し、研究機関および研究者に頒布した。その作成過程では、歌舞伎と後続の演劇形式である新演劇との、戦争というテーマの描き方の相違点や共通性等に関する新たな知見が得られ、戦争劇の中で必然的に描かれる、敵国人等に対する差別的・侮蔑的な言辞等についても、近世期の表現からの連続性と断続性等の観点から、具体的に考察を行うことができた。

この他、明治期の戦争劇においては、いまだに実在の人物に仮名を与えるなどの配慮がなされていることを、上演台本の書入れ等から具体的に明らかにしており、大正後期から昭和期に、むしろ実在の軍人等の事績を劇化する傾向が強くなることと比較して、日露戦争後、大正期頃に、戦争劇の変質が生じたと考えに至った。

なお、『明治期戦争劇集成』の内容については、演劇以外の分野の専門家を含む、複数の研究者から内容に関して有用な助言、示唆等をいただいております、研究期間終了後にもさらなる研究の発展や、共同研究への展開が期待される。

一方、興行環境への戦争の影響や、歌舞伎関係者の戦時体制への協力の実態についても、諸資料を通じて具体的考察を行い、戦時中における上演台本・演出等の変遷などに関して、新たな知見を得るに至っている。上演台本の変遷に関しては、今後、戦争との関係以外の要素によるものも含め、さらに総合的に調査・考察を進めていく予定である。

以上の成果を踏まえて、現在、明治期から昭和期に至る通史的な歌舞伎と戦争との関係に関す

る著作の執筆を進めている。2022 年中の刊行を予定して、出版社との調整を行なっている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 日置貴之	4. 巻 64
2. 論文標題 歌舞伎の三姫について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歌舞伎 研究と批評	6. 最初と最後の頁 105-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 大橋崇行, 柳瀬善治, 神林尚子, 日置貴之
2. 発表標題 明治～大正期の演劇 / 演芸と近代小説の編成      メディア間の相互交渉とアダプテーションの視点から
3. 学会等名 日本近代文学会2019年度秋季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takayuki Hioki
2. 発表標題 The Losers in the late 19th-century Kabuki Plays (in the panel "Mobility and Periphery in pre-modern Japan: Theatre as Social Media")
3. 学会等名 International Federation for Theatre Research (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takayuki Hioki
2. 発表標題 戦争・災害・能の模倣：明治歌舞伎の伝統 (Les guerres, les catastrophes et l'imitation du no: la tradition du kabuki de L'ère Meiji)
3. 学会等名 La tradition theatrale en France et au Japon: reflexions croisees sur les mises en scenes contemporaines du theatre baroque et le Kinoshita Kabuki (招待講演)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 日置貴之	4. 発行年 2021年
2. 出版社 私家版	5. 総ページ数 384
3. 書名 明治期戦争劇集成	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 La tradition theatrale en France et au Japon: reflexions croisees sur les mises en scenes contemporaines du theatre baroque et le Kinoshita Kabuki	開催年 2018年～2018年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------